

NJ 素流協 News

平成28年 9月10日 第140号

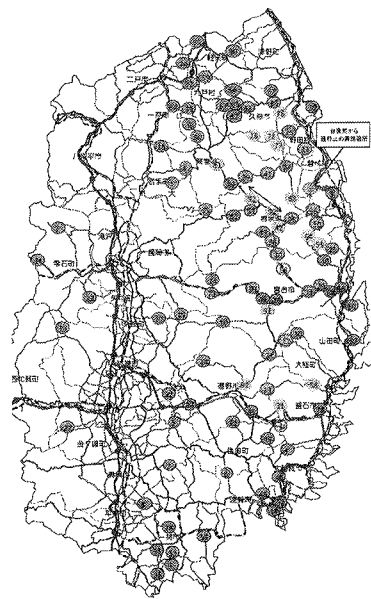
平成28年 9月10日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館5階)
 TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>

台風10号により岩手県東部に甚大な被害発生

大型の台風10号は8月30日岩手県に上陸し、岩手県東部・北海道地域を中心に、各地に甚大な被害をもたらしました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

台風10号は日本の南の海上を迷走した後強い勢力を保ったまま北上し、30日夕方に岩手県大船渡市付近に上陸した。台風が東北地方の太平洋側から北西方向に上陸したのは気象庁が1951年に統計を取り始めて以来初めてであり、岩手県東部、特に北上山地の東側や北海道に記録的な大雨をもたらし、各地で河川の氾濫や土砂災害などが発生した。

岩手県で最も多い降水量を記録



台風10号に伴う通行規制箇所図 (岩手県ホームページより)

ち、9月5日午前10時現在国道106号、国道340号等の11路線17箇所で全面通行止めが継続されている。当組合が9月

した久慈市下戸鎖では、29日午前0時から31日午前0時までの雨量が278・5ミリに達した。8月はこのほかにも台風5号、7号、11号、9号と立て続けに台風が接近・通過しており、同地点では8月1カ月で623ミリと平年の3・5倍もの降水量を記録している。被害の全容は明らかになっていないが、岩手県道路環境課によると、県管理道路で全面通行止めとなった54路線99箇所(図丸印)のうち、



国道340号宮古市川井深戸トンネル付近の状況

5日までに把握した情報によると、宮古市川井の(有)川井林業事務所が浸水、同社の夏屋土場で丸太が流出、(株)ウツティかわい蟹岡工場で従業員が出動できず操業停止、宮古市磯鶏のホクヨープライウッド(株)宮古工場が浸水、岩泉町浅内のトリア木材(株)で土場の丸太が流出、宮古市茂市の(株)小林三之助商店岩手工場で丸太が流出したほか工場(機械)が浸水、岩泉町浅内の(株)吉本岩泉事業所卯名根口所長代理の自宅が浸水、等の被害が出ている。今後も台風等による二次災害の発生に十分注意する必要がある。

なっている。

調査結果のうち、木質バイオマス利用量の確定値と、事業所の概要、設備の利用動向、公的補助の活用状況については本年12月に公表される予定である。

トピックス

東北森林科学会で燃料材生産について報告

第21回東北森林科学会大会が8月25、26日の両日、盛岡市の岩手大学において開催され、当組合の外館経営企画部長が岩手県からの受託事業「岩手県燃料材生産供給モデル実証業務」（平成26年度）による実証結果を報告したので概要を紹介する。

「木質バイオマス燃料用材の生産有無による材積と収支」

外館聖八朗（NJ素流協）

我妻修（岩手県森林整備協同組）

合）

大橋一雄（元県林業技術センター）

1 はじめに

近年木質バイオマス発電所が建設され、燃料として木材の新たな需要が創出されている。そこで、通常の素材生産に加えて、従来放置されていた根株部（ドンコロ材）、梢端部、曲がり材等を燃料材として生産した場合の収穫材積や収支について実証を行った。

2 実証方法

岩手県内3箇所の実証林分（スギ50年生生人工林、カラマツ35年生人工林、アカマツ55〜65年生天然林）において、通常の素材生産に加えて燃料用材の生産を行い、生産材積や収支を比較検討した。

3 結果と考察

収穫材積における燃料用材の比率は樹種により異なり、アカマツでは3%と小さく、スギ、カラマツでは20〜25%となった。また燃料用材の生産により造材歩留まりはスギ0.90↓1.12、カラマツ0.65↓0.86、アカマツ0.97↓1.00と向上した。燃料用材の販売額に占める比率は10〜15%で、カラマツ、アカマツ

ツでは燃料材生産に係る経費を収入の増加分が上回り、燃料材を生産しない場合よりも収益が向上していた（スギについては収支検討せず）。

今後は燃料用材生産にかかる集材、運材システムの体系化が必要である。

ワラビによる下刈り省力化現地検討会に参加

当組合が参画する農林水産省の地域戦略プロジェクト「優良苗の安定供給と下刈り省力化による一貫作業システム体系の開発」の現地検討会が8月8〜9日の両日山形県において開催され、当組合から吉田経営企画課長が参加した。

山形県森林研究研修センターでは、スギや広葉樹の伐採跡地にワラビポット苗を植栽して林床を被覆することによる下刈り作業省力化に取り組んでおり、今回はその実証試験地を見学し意見交換が行われた。山形県はワラビの生産量全国一位の産地であり、耕作放棄

地への植栽等の取り組みが進められている。

同センターによると、ワラビは1〜2年で林床を完全に被覆し、植栽2年目と3年目はワラビを安定させるために年1回下刈りを行う必要があるが（生育状況によっては1年目、4年目等の下刈りが必要）、全体としては下刈り回数を半分程度軽減することができること。ワラビは年間2トン/ha程度収穫でき、副収入も期待できる。

なお、ワラビによる下刈り省力化試験は当組合でも取り組んでお



草原のように繁茂したワラビの状況

り、(株)イワリン所有林(紫波町)と(株)泉山林業所有林(八幡平市)で実証中である。

日本木質バイオマスエネルギー協会勉強会に出席

(一社)日本バイオマスエネルギー協会の平成28年度第1回勉強会が8月23日、東京都内の会場で開催され、当組合の高橋常務理事が出席した。

勉強会では「ヨーロッパにおけるF I T市場統合の動向」をテーマに、現行のF I T制度を段階的に廃止し、いずれは市場経済と一体化させる、とする欧州委員会の方針を踏まえての欧州の動向と我が国の今後のF I Tのあり方について、3名の講師による講演が行われた。

岩手北部森林管理署採材検討会に出席

岩手北部森林管理署の採材現地検討会が8月25日、二戸市内の国有林において開催され、当組合か

ら小野寺営業企画部長他2名が出席した。

鈴木勝之署長の挨拶に続き、岩手県森林組合連合会の米澤健共販グループ長から現在の市況について説明があった後、グループに分かれての採材検討が行われた。同署からは、2 m材を続けて採材する場合、合板として使用可能な材については4 m材を基本とすること、アカマツについては木口が汚れないよう配慮すること、等の

説明があった。当組合からは、合板工場では生産効率の良い4 m材が求められていることを説明し、混入しないよう呼びかけた。

林業関連事業者の経営実態調査より

帝国データバンクは、2016年6月末時点の企業概要データベース「COSMOS2」(146万社収録)から、2014年、2015

年決算(1~12月期決算)の売上高が判明した林業関連事業者1616社を抽出し、経営実態の分析結果をこのほど公表した。(注1:「林業関連事業者」とは、育林業や立木の伐木販売などを主業とする事業者で、協同組合や林業公社等を含む。注2:業績は推定値も含む。損益は当期純損益。)

これによると、2015年決算の林業関連事業者1616社の売上高合計は前年比7.1%増の約

◆木材関連情報ウェブサイトのご紹介◆

【官公庁等 立木・素材入札情報】

- ・東北森林管理局 <http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/>
ホーム>公売・入札情報>林産物の販売
- ・国立研究開発法人 森林総合研究所 森林整備センター <http://www.green.go.jp/>
ホーム>入札・契約情報>入札情報(造林木販売)
- ・岩手県 <http://www.pref.iwate.jp/>
ホーム>産業・雇用>林業>県有林>公売情報
- ・宮城県 <http://www.pref.miyagi.jp/>
ホーム>組織でさがす>森林整備課>県有林の管理

【原木市場 入札情報】

- ・秋田中央木材市場株式会社 <http://www14.plala.or.jp/mokuzaiichiba/>
ホーム>市日・所在地ご案内

【木材市況】

- ・農林水産省 <http://www.maff.go.jp/>
ホーム>統計情報>森林・林業に関する統計>流通>木材価格統計調査
- ・一般財団法人日本木材総合情報センター <http://www.jawic.or.jp/>
ホーム>国内木材情報
- ・青森県森林組合連合会 <http://www.aomori-pfau.or.jp/>
ホーム>入札情報
- ・岩手県森林組合連合会 <http://iwatemoriren.org/>
ホーム>木材共販情報
- ・秋田県森林組合連合会 <http://www.akita-moriren.or.jp/>
ホーム>木材情報
- ・宮城県森林組合連合会 <http://www.miyamori.or.jp/>
ホーム>木材センター>過去の木材市況
- ・長野県森林組合連合会(カラマツ情報) <http://www.naganomoriren.or.jp/>
ホーム>木材センター>市況表

(注)当該情報を公開しているサイトのみ紹介しています。

4502億7000万円で、このうち増収企業は534社で全体の33・0%であった。

2期連続で損益が判明した644社について、2015年に増収増益となった企業は223社で、減収減益の事業者は192社であった。

業種細分類別にみると、造林、育林事業者が762社(構成比47・2%)で約半数を占め、森林組合382社(同23・6%)、原木生産業282社(同17・5%)と続いている。

地域別では、東北が322社(構成比19・9%)で最も多く、九州243社(同15・0%)、北海道230社(同14・2%)など、地方が多数を占め、北海道、近畿、中国の3地域で減収企業が増収企業を上回っている。

代表者の年齢(1140社で判明)は、最高齢は92歳、平均年齢は64・4歳となり、全業種平均の59・2歳に比べ5・2歳上回っていた。

国有林素材山元委託販売 入札結果

市日：平成28年8月31日(水)

市場：岩手北部森林管理署(第2回)

(参加者人数 10名)

売払番号	樹種	長級(m)	径級(cm)	等級	本数	材積(m³)	応札枚数	土場
602-1	スギ	4.00	16-30	中玉・中玉A	210	39.428	4	駒ヶ岳
602-2	スギ	4.00	16-30	中玉・中玉A	233	45.014	4	駒ヶ岳
602-3	スギ	4.00	18-32	中玉・中玉A	67	17.290	4	駒ヶ岳
602-4	スギ	4.00	18-30	中玉・中玉A	216	41.254	6	駒ヶ岳
602-5	スギ	4.00	14-18	中玉	43	4.150	1	駒ヶ岳
602-6	スギ	4.00	28-40	中玉・中玉A	42	17.558	4	駒ヶ岳
602-7	スギ	4.00	16-32	中玉・中玉A	464	76.012	5	駒ヶ岳
602-8	スギ	4.00	18-32	中玉・中玉A	154	39.004	4	駒ヶ岳
602-9	スギ	4.00	16-30	中玉・中玉A	195	30.764	4	駒ヶ岳
602-10	スギ	4.00	16-30	中玉・中玉A	88	15.468	4	駒ヶ岳
602-11	スギ	4.00	16-28	中玉	73	11.410	4	駒ヶ岳
602-12	スギ	4.00	18-30	込	282	48.480	4	津谷川
602-13	スギ	4.00	14-16	込	147	14.130	1	津谷川
602-14	スギ	4.00	14-36	込	463	78.288	5	津谷川
602-15	スギ	4.00	16-34	込	228	40.638	5	津谷川
602-16	スギ	4.00	14-36	込	362	67.316	4	津谷川
602-17	スギ	4.00	16-32	中玉・中玉A	871	164.936	4	長橋
602-18	スギ	4.00	28-46	中玉・中玉A	240	104.076	3	長橋
602-19	スギ	4.00	16-32	中玉・中玉A	514	96.924	3	長橋
602-20	スギ	4.00	16-36	中玉・中玉A	477	72.566	2	本内川
602-21	スギ	4.00	16-28	中玉	143	21.652	2	本内川
602-22	スギ	2.00	16-38	込	653	50.343	5	駒ヶ岳
602-23	スギ	2.00	14-40	込	659	61.145	4	長橋
602-24	スギ	2.00	14-42	込	660	67.143	4	長橋
602-25	スギ	2.00	14-28	込	110	7.336	3	本内川
602-26	LA	2.20	-	低質	層積	54.159	5	本内川
602-27	LA	2.10	-	低質	層積	27.730	5	本内川
合計					7,594	1,314.214		

スマホでの検知ソフト 「検知」販売開始

(株)ウッドインフォ(中村裕幸社長、東京都)

はこの度、スマートフォンを利用した検知業務ソフト「検知Talk」を開発し、販売を開始した。

このソフトは、検知作業者が径級を読み上げると、アンドロイド

搭載スマートフォン音声認識機能によりデータが記録されるもので、一人で検知作業を行うことが可能となる。記録したデータは台帳として利用できる。またアンドロイドバージョン6からは電波が届かない場所でも使用できる。

Google Play storeで試行版アプリをダウンロードすると、15日間

は無料で使用することができる。

使用料は年間10万円(税抜き)。

ウェブ入札を 開始しました

当組合では8月31日より国有林素材のウェブ入札を開始しました。パソコン・スマホから参加できるので、皆様の参加をお待ちしています。

ちよつと気になる木の話 2

天然林材と人工林材の価格差

— カラマツの価格は

— これでいいのか? —

A材丸太価格の低迷が続く中、A材丸太価格で高いのは何かといえ、天然林材で銘木と言われる。㎡当たり単価で言えば、ウダイカンバ250万、ミズナラ・センノキ150万といった広葉樹もあるが、針葉樹も高い。天然木曽ヒノキ250万、天然秋田スギ100万と価格は出ている。かつては、天然屋久スギ、天然ヤナセスギ、霧島アカマツ、滑松等数々の有名ブランドが存在していた。

これに比較して人工林はというと、案外と高い。毎年の各種記念市でも、スギ、ヒノキには100万円/㎡超えが見られる。

何故、この単価が出るのかと言えば、2通りの理由がある。一つは、長尺大径の寺社仏閣用材で、元の形に復元するため必要な丸太である。もう一つは、スライスして、形状と取引単位を1枚幾らと変えるもので

2

ある。スギであれば、秋田、ヤナセ、屋久島共に天井板である。のちには薄くスライスされ張天井となつていくが、更に、ツキ板、化粧単板と1本の丸太から大量の製品へと生まれ変わるものである。広葉樹の銘木も同様である。しかしながら、こうした商品は銘木市場には出回らず、ツキ板・化粧単板はメーカー同士で取引されて、普通は目にすることはない。現在の銘木市場には、長尺の厚板が所狭しと並んでいることが多く、最終製品ではなく、いわば一次加工品の色彩が強い。買った人が最終製品に仕上げるのである。この場合の取引単位も1枚幾らで1㎡幾らではない(かつての和室高級材料の長押・鴨居・四方無節柱等は㎡単位で取引されていた)。

さて、本題である。スギ、ヒノキとも100年生超えの人工林材丸太であっても100万円/㎡超えは珍しくはなく、普通の市売であっても50万円/㎡程度の価格は見られる。

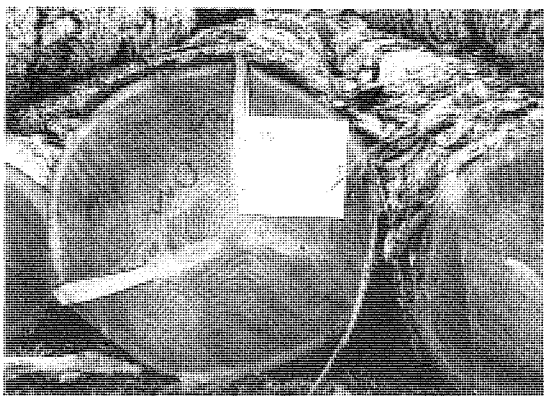
さて、カラマツはどうだろうか。天然カラマツ優良材が市場に出品されると、やはり100万円/㎡超えである。それこそ、元玉から2番玉、3番玉でも高く、細い丸太でも単価は高い。一般的人工林材と比較すると、白太(辺材)はほとんどなく、真っ赤で年輪は超緻密である。

それなのに、人工林カラマツの100年生超えて、同じように赤いものが信州カラマツの本場でも5万円/㎡である。何故スギ・ヒノキと同様に100年生超えて、単価が出ないのかである。結果は、薄板や薄くスライスする買い手がないことにある。

それでも天然カラマツは100万円を超える。これを誰が買って、何に使っているかについて、真剣に聞いた人がいないのである。昨年天然カラマツ出品の際には、全て落札できなかつた業者が、改めて買った東京の業者に買い戻しに行つて、テール・内装に加工し顧客に喜ばれたそうである。

ここにきて、カラマツの人工林も高齢化し、皆伐再造林するのに10

0年生超えたらこの価格も出る、と言うことができれば再造林意欲も湧くと言われるようになった。ツキ板・化粧単板業界も試作品を作り始めている。高齢級カラマツの特徴は、何と言つても白太が薄いことにある。結果スライスしても色ムラが生じない。超A級品の確率は高くなる。この方向が当たれば、カラマツ人工林材が銘木に位置付けられる日が来るかもしれない。アカマツでもヤニ松は高いが、カラマツも何年も拭き取りつや出しをしなければならぬようにヤニは多い。その後は、確実に銘木である。



白太が薄い信州カラマツ (径級48cm)

今月の名木・巨木

35

(秋田県横手市)

秋田県指定天然記念物

筏の大杉

指定：1988年3月15日

所在：横手市内筏字植田表56

「筏の大杉」は、岩手県北上市と秋田県横手市を結ぶ国道107号線沿いの横手市内(旧山内村)中心部南東側に位置する筏地区の比叡山神社境内にある。

秋田県で幹周第2位(環境省の巨樹・巨木データベースより)を誇る神木は、樹高43m、幹周11.8m、推定樹齢約千年とされており(現地案内板より)、幹は途中か



江戸時代後期の旅行家・菅江真澄(1754~1829)は、信濃、越後、庄内、秋田、津軽、南部、仙台、蝦夷地、下北などを旅した後48歳で再び秋田を訪れ、故郷の三河には戻らず生涯を秋田で過ごした。「菅江真澄遊覧記」

ら二股に分かれ、幹下部には巨木2本分のボリュームがある。樹勢の衰えが若干感じられるが、根元を保護するため周囲は柵で囲われ、

2本の幹は互いにワイヤーで固定されるなど手厚く保護されており、しばらくは元気な姿を見せてくれそうである。

案内板によると、幹周は1711年(正徳元年) 8・6m、1846年(弘化三年) 10・0m、1910年(明治43年) 12・7mとの記録が残っており、300年前には既に巨木だったことが分かる。

の「雪出羽道 平鹿郡14」には、筏の大杉の様子が絵と文章で紹介されているが、大杉は2頁にわたるダイナミックな構図で描かれ、

「平鹿郡第一ノ大樹也」と記されている。

その次に紹介されている「仙人権現社」とは同地区の筏隊山(はつたいさん)神社のことで、岩手県北上市の久那斗神社(仙人権現社)から分社されたと伝えられている。

筏の大杉は、本誌103号で紹介した久那斗神社の神木「仙人峠の姥スギ」とともに、横手と北上、平泉を結ぶ古道「秀衡街道」のシンボルとなっている。株分けされた中尊寺ハスが筏隊山神社に植えられるなど、現在も街道を通じた交流が続いている。

「林業・木材製造業労働災害防止規程」変更のポイント⑥

▽チェーンソー防護衣の着用を義務化(従来は努力義務)
チェーンソーによる伐木又は造

材作業を行う場合は、作業者に次のことを守らせなければならない。

- ①袖縮まり、裾縮まりのよい作業服を着用する等、安全な作業を行うことができる服装とすること。
- ②保護具を着用すること。

▽アドレナリンの自己注射器の携帯を義務化(従来は努力義務)

蜂刺されのおそれのある場所で作業させる場合は、あらかじめ作業者に医師による蜂アレルギーの検査又は診察を受けさせ、重篤なアレルギー反応を起こす可能性のある作業者には、アドレナリンの自己注射器の処方及び交付を受けさせた後、作業地に携行させなければならない。



自己注射器の携行を義務化(図：林業・木材製造業労働災害防止協会パンフレットより)

平成28年8月分の販売実績

樹種	合板用			その他 製材用等			計		
	当月出荷量 (m ³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m ³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m ³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	7,362	80.4	134.5	5,231	99.0	99.3	12,593	87.2	117.2
カラマツ	1,416	58.8	33.0	533	39.9	165.3	1,949	52.1	42.2
アカマツ	577	26.3	102.4	66	61.8	40.3	643	28.0	88.4
その他針葉樹	0	*	0.0	0	*	*	0	*	0.0
広葉樹	0	*	*	28	75.2	44.3	28	75.2	44.3
合計	9,355	68.0	89.1	5,858	86.6	100.7	15,213	74.1	93.3

樹種	バイオマス用素材		
	当月出荷量 (t)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	4,801	90.6	197.7
カラマツ	1,387	58.9	49.1
アカマツ	735	86.6	87.1
合計	6,923	81.4	113.6

樹種	今年度累計			
	合板用 (m ³)	その他 製材用等 (m ³)	計 (m ³)	バイオマス (t)
スギ	38,408	24,255	62,663	19,654
カラマツ	11,282	6,130	17,412	9,384
アカマツ	11,122	985	12,106	7,650
その他針葉樹	0	0	0	0
広葉樹	0	109	109	0
合計	60,812	31,478	92,290	36,689
目標達成率(%)	33.8	31.5	33.0	40.8
計画量	180,000	100,000	280,000	90,000

注)*印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

【平成28年8月の需給動向】

- スギ合板用原木の動きは鈍いものの、スギ製材用原木の引き合いが多少強まった。
- カラマツ原木は依然として動きが停滞し、原木の引き合いも弱まった状況が続く。
- アカマツ原木は伐採制限の影響もあり出材が減少、よって供給不足状況にある。

耳からウロコ

ヨーロッパの救世主

数年前ドイツの林学者が来日し、カラマツの講演を軽井沢で行った。この中で、興味深いことが語られている。

かつて日本からカラマツの種がヨーロッパに輸入され、ジャパニーズブラーチとして育っていた。ここで、病虫害が発生し、ヨーロッパブラーチが枯れてしまい、生き残ったジャパニーズブラーチとヨーロッパブラーチのF1(交配種)が植えられ、再びヨーロッパにカラマツが風景として残ることとなった。特にスコットランドはジャパニーズブラーチであると語っている。外来種はダメと言われているが、ヨーロッパのカラマツの救世主は日本だったのである。そういえばかつての日米林産物協議の関税撤廃の話の時、カラマツの種子には輸出税が残っていた。日本のカラマツの優秀さだったのであるか。それとも、カラマツ種子の豊凶の長さに起因するものだったのだろうか。

一方、南アフリカには、吉野スギの大造林地が存在する。イギリス人が持ち出し、植林したもので、立派に成林している。気候、土壌が吉野と近かったことが功を奏したのである。他にも、ブラジルから桐の木が輸入されていた。日本からの移民が渡る際、女の子が生まれたときに植えるため持ち出されたと言われているが、結果的には、成木となり再び日本に戻ってきたという奇妙な縁である。

逆の現象もある。法隆寺の五重塔の再建の時に話題となった台湾ヒノキである。一時期、伊勢神宮にもどうかと言われたが、M下電器創業者の一声で木曾ヒノキに全て戻ったと話題となった。現在、台湾ヒノキは禁伐である。台湾では台湾ヒノキで修繕しようとしても在庫は無く、在庫があるのは日本の業者だという。建物解体時にも台湾ヒノキだと別途流通するとウワサに聞く。日本から輸出されるが、これも奇妙な縁である。いずれにしても、単なる木材輸入で飯を食うのはどうかと思うが、ヨーロッパブラーチがジャパニーズブラーチだというのは、日本人がニッコロする話である。